

ALLOF

LANCIA STRATOS

歴戦の勇者たち

STRATOS IN ACTION



1977年限りでWRCワークスマシンの座をフィアット131 アバルトに奪われたランチア・ストラトス。ポテンシャルが衰えたわけでも、強力なライバルが出現したからでもなく、それはフィアット首脳の販売戦略によるものだった。ストラトスの栄光の日々はあまりに短かったが、ここにラリーマシンとしてのストラトスを、こよなく愛したふたりのドライバーがいる。サンドロ・ムナーリとベルナルド・ダルニッシュ。それぞれのモンテカルロ・ラリーを語ることは、最強のストラトスを語ることでもある。

ジャンカルロ・ペリーニ：報告
report by Giancarlo Perini

椎橋俊之(アズーロ)：文
text by Toshiyuki Shiihashi(AZZURRO)

ペリーニ資料館/マックスプレス：写真
photographs by Archivio Perini & Max Press

DANCE WITH MUNARI!

[ムナーリにモンテ3連覇の栄冠を]

ワークスとして最後のモンテ参戦となった1977年。
折しも、前年から試験的に投入された次期ワークスマシン、
フィアット131アバルトも大量エントリーし、雌雄を決すべき戦いとなった。
ストラトスを駆るムナーリにはモンテ3連覇が懸かっている。
どうしても負けられないストラトスの武器となったのは、
WRCデビュー以来のパートナー、ピレリだった。

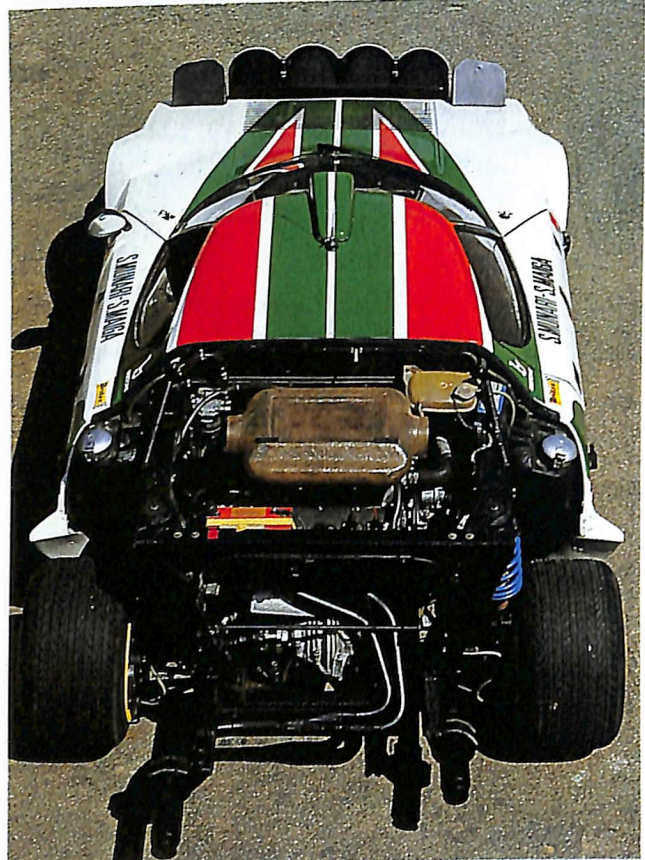


Lancia Stratos Alitalia

LANCIA AND PIRELLI RALLY PARTNERS SINCE 1972



↑アリアリア・カラーに強烈なイエローのキャンパニョーロ・ホイール。伝統を誇るイタリアンラリーマシンに大きなエポックを築いたランチア・ストラトスのアイデンティティがここにある。現在でもマシンは走行可能だ。



↑WRCを席巻したパフォーマンスを極めるストラトスのリヤビュー。4バルブ化されたディノV6ユニットは300psを発生する。モンテカルロ仕様の最高速度は180km/hに、ツール・ド・コルス仕様は150km/hに設定された。



↑ムナリーの仕事場となったストラトスのコックピット。皮革性のバケットシートが時代を感じさせる。4点式のシートベルトが窮屈感を盛り上げる。ドア内側の巨大なポケットにはヘルメットがそのまま収納できた。

ALL OF LANCIA STRATOS

131アバルトとの一騎討ち。ムナリーのモンテカルロ3連覇。アバンデーロ・コレクションの女王。シャシーNo.829 AR0001683は、1977年モンテカルロ・ラリー優勝車である。希代のストラトス使いサンドロ・ムナリーにモンテ3連覇の夢を実現させ、それは同時にワークス・ストラトス最後のWRC勝利となった。登録NoはTON41648。製造は1975年暮れだった。ちなみに、この番号はストラトスのWRC史に頻りに登場している。

ストラトス全盛期の1976年、高連ラリーで知られるツール・ド・コルスでデビューインを飾り、77年のモンテカルロ・ラリー優勝を最後に、以後ムナリーがこのマシンをドライブすることはなかった。それだけにムナリーもTON41648車への愛着は深かったようで、現在でも折りを見てはアバンデーロ邸を訪れては、往年の優勝マシンの安泰な姿を確認するという。1977年はワークス・ストラトス最後のシーズンだった。翌年からアリ

タリア・カラーはファイアット131アバルトに譲られ、ストラトスはプライベーターの手に委ねられることになったのである。WRCワークスマシンの交際は、純粋にファイアット首脳の販売戦略によるものだった。スーパーカーの部類に入るストラトスの活躍は、ランチア・ブランドのイメージアップには寄与したものの、親会社のファイアットにしてみれば、必ずしも商売面でプラスとなるものではなかった。ファイアットのアニエッリ会長は「日曜日にラリーで勝ち、月曜日に顧客がディーラーに注文するクルマが欲しかったのである。」

さらに、ラリーマシンの理想を追求したストラトスのパフォーマンスが、当時のWRCではあまりに「過剰」だったとの見方も有力だ。ライバルといえば、量産車ベースのオペル・カデットやフォード・エスコートであり、フエラーリ・エンジンを搭載したスーパーミッドシップマシンから見れば、明らかに相手として不足だった。「月曜日に注文できる」ラリーマシン

は、子想通りストラトスと131アバルトの凄絶な一騎討ちとなった。ことにモンテ・マスタリーの異名をとるムナリーには負けられない戦いだったはずだ。モンテ3連覇の夢を無骨なセダンに砕かれてなるものか、ストラトスのパフォーマンスを思い知らせてやる！アリアリア・カラーのストラトスは、S・ムナリー、B・ダルニッシュ、R・ピントのランチア・ワークス三人衆に与えられ、一方の131アバルトはファイアット・ワークス新進のM・アレックスからエントリートしたJ・アンドリュウの手に委ねられる。

この年のモンテは極低温、深雪コンディションで戦われた。76年までの厳し過ぎるタイヤ規制（サイズ、コンパウンドともに1タイプのみ使用可能）が緩和され、チームはスペシャルステージの路面状況にマッチしたタイヤを使うことができるようになったが、これは同時にシビアなタイヤ選択を意味するものだった。いったんタイヤチョイスを間違えば、たちまちトップ争いから脱落することになる。ストラトスも131アバルトもタイヤはピレリだったが、ストラトスの方がフロントとリヤタイヤの接地幅の組み合わせ範囲が広い分や有利だった。さらに、ム

ナリーはチェリニニをばじめとするモンテのスペシャルステージを我が家の庭のように熟知している。天候、温度などのデータから、凶星のコンパウンドを選ばムナリーは、やはりモンテ・マスターそのものだった。ピレリの技術陣も、コンディションに応じて最適のトレッドパターンを素早くハンドカットし、ムナリーに合わせた。凍てつくワインディングロードを、ムナリーの駆るTON41648ストラトスは華麗に舞う。その命運はもはや尽きかけていたが、吹雪のチュリニ峠は、そのとき確かにストラトスとムナリーのためにあった。

MAX PRESS

RETURN
OF
THE
LEGEND

GRAND BLUE

【最後のモンテ制覇ストラトス】

ムッシュ・シャルドネ率いるフランスのラリーチームは、
当時、最強のランチア・プライベートーとして輝かしい戦績を残していた。
そのマシンはルノー・アルピーヌ譲りのフレンチブルーに塗装され、
エースドライバーのダルニッシュはワークス待遇を受ける実力派だった。
熱くストラトスを受取るこのフランス・チームは、
ワークスマシンの資格を失ったあともラリー選手権に参戦し続け、
1979年のモンテカルロ・ラリーを制して見せたのだった。

Lancia Stratos Chardonne
chassis No. 829AR001868 registration No. 10-N14329

マリオリの徹夜の作業に、
見事応えたタルニツシユ。

1977年の暮、ファイアットとラン
チアのレース部門が統合された。ワー
クス・ストラトスの象徴でもあったア
リタリア・ロゴは131アバルトに譲
り渡され、以後、ストラトスがセミワ
ークスとして参戦するときはピレリが
スポンサーに付くことになる。同時に、
ムナリーは正式にファイアット・コルセ
と契約を結んだ。しかし、W・ロール
やM・アレシといった脂の乗り切った
ラリードライバーをラインナップする
ファイアット・ワークスだけに、もはや
エースの座はムナリーのものではな
かった。この年、往年のモンテ・マスタ
ーが3位以内に入ったのは1回だけ。
それもファイアットがメイクスチャンピ
オンを決めるべく、6台ものワークス
カーを投入したツール・ド・コルスで
のものだった。



1 最強のプライベートマシンと呼ばれるシャルドネ・ストラトス。フレンチブルーのシックなカラーリングとは
裏腹に、しばしばワークス勢を喰って上位進出を果たした歴戦の勇車である。現在も走行可能な状態だ。



1 シャルドネ・ストラトスのエンジンは2バルブバージョン。しかし、マリオリのチューニングによって、1979
年のモンテカルロ優勝のときは287psまでパワーアップされていた。現在も当時の状態が維持されている。



1 シャルドネ・ストラトスのインテリアで目を引くのが、外装に合わせたブルーのバケットシート。ワークスマ
シンに較べて室内の装備やレイアウトが別々に異なる。チュリニ峠でのタルニツシユの奮闘ぶりが目に浮かぶ。

ルドネ・カラーのB・ダルニツシユが
プライベートに参加している。

マシンは74年製造のシャシーNo.82
9AR0001868、75年暮の登録
でNo.TON14329を付ける。搭載
されるエンジンは、ワークスの4バル
ブ300ps版とは異なる270psの2
バルブだ。レースデビューは76年のモ
ンテカルロ。タルニツシユはムナリー、
ワルデガルドに次いで3位に入り、ラ
ンチア・ワークスは1と2と3ファイニッ
シュを飾っている。まさにストラトス
全盛期であった。

ストラトスに心底惚れ込んだタルニ
ツシユは、ワークス・ストラトスなき
あともプライベート参戦を続け、フラ
ンス国内ラリー選手権で3勝を挙げて
いる。WRCではアクロポリス・ラリ
ーに参戦したがマシントラブルでリタ
リア。タルニツシユ自身はこの年のツ
ール・ド・コルスで優勝を飾っている
が、これはファイアットのメイクスチャ
ンピオン獲りに駆り出されたもので、
マシンは131アバルトだった。

1979年のモンテカルロ・ラリ
ーは、タルニツシユの駆るシャルドネ・
ストラトスにとって、最後の暗れ舞台
となるものだった。ツール・ド・コル
スで4回優勝しているタルニツシユに
とつてもモンテ制覇は長年の夢だっ
たに違いない。フレンチブルーを纏った
歴戦のマシンは、希代のストラトス・
チューナーであるC・マリオリの手
で入念にメンテナンスされ、2バルブ
V6ユニットはワークスマシンに迫る
283psまで出力アップ、車重も95
0kgまで軽量化が図られている。

山岳路における事前テストの結果は
きわめて良好で、131アバルトや新
たに投入された軽量タイプフォード
・エスコートRSを向こうに回し、互
角以上の戦いを挑める目算も十分に立
つものだった。

勇躍、アルプス山中に出撃したシャ
ルドネ・ストラトスだったが、第1レ
グは散々だった。テストであれだけ好
調だったデノV6ユニットがまたた
く吹けず、順位はズルズルと落ちてい
く。原因はガソリンだった。FIAか
ら供給されていたフランス製燃料のオ
クタン価が低く、エンジンが所定の出
力を発揮できなっていたのだ。マリオリ
はベース基地で必死の吸気系セッ
ティングの変更に取り組んだが、第2
レグのスタートまでに完璧な作業を終
えることは不可能。とりあえず暫定プ
ログラムを組み込み、応急処置として
エアフィルターを取り外してマシンを
スタートさせるほかに術はなかった。

それでも、パフォーマンスはやや向
上し、それに加えてタルニツシユの獅
子奮迅のドライブینگが功を奏して、
最終レグに入る前日までに順位を6位
にまで回復する。しかし、首位を快走
するフォードのワルデガルドとの差は
6分30秒ある。果たして、起死回生の
チャンスは残されているのか。明日は
いよいよモンテ最後の夜。それはチュ
リニ峠の死闘の幕開けでもあった。

エンジン不調が発生して以来、その
対策でマリオリは一睡もしていない。
しかし、彼はタルニツシユのドライビ
ングスキルを信じて疑わなかった。

徹夜の作業を重ね、朦朧たる意識の
なかで、ついに、不屈のマリオリは

ベストセッティングを見出すことに
成功する。最終レグのスタート時間が
迫るなかで、彼は自ら燃料系セッテイ
ングに取り組み、最後に言い放った。
「エアフィルターを元に戻すんだ。さ
あ、ベルナルド、今晚のチュリニ峠は
君のためにある！」

凍てつく峠道を制するためのスパイ
クタイヤが装着され、シャルドネ・ス
トラトスは雄叫びを上げてアルプス山
中に飛び込んでいった。スタートして
すぐ、タルニツシユはエンジンがパー
フェクトに回っていることに気がつく。
カメラマンのストロボの閃光に浮き上
がる青いストラトスは極寒の峠道を自
在に舞った。マシンに心があつたなら、
自らの心臓に神が宿っていると感じた
に違いない。驚異的なハイペース。みる
みるポジションが上がり、もはや負か
すべき敵はワルデガルドだけとなった。
チュリニのブリマドンナは、ドライバ
ーの歓喜の叫びとともにファイニッ
シュラインを轟然と走り抜けた。その差6
秒。ランチア・ストラトス最後のモン
テ制覇であった。

ALL OF
LANCIA STRATOS

ALL OF LANCIA STRATOS

1984

DATE	EVENT	RESULT	DRIVERS	SPONSOR	REG.No.
10 Jul	Stalom Pinot(I)	?	(8) De Siefans (4) Borra (5) Vezza	Alitalia	F1995345

1985

DATE	EVENT	RESULT	DRIVERS	SPONSOR	REG.No.
1 Jan.	Mont VENEUX(F)	?	Mayer		7929HU69
7 Jul	Stalom Pinot(I)	?	(5) De Siefans (4) Borra		?

ストラトスと生まれた タイヤ革命児—ピレリP7

フィアット&ランチア・ワークスとピレリのパートナーシップは、WRC (世界ラリー選手権) の始まった1973年からスタートしている。ピレリを装着したフィアット124アバルトがポーランド・ラリーで優勝を飾ったのが最初の勝利。ちなみにロードライバーは現在のF1フェラーリ・チームの監督を務めるジャン・トッドだった。ストラトスがWRCに参戦するに当たって、ピレリはこの前代未聞のミッドシップ、ハイパワーラリーマシンにはこれまでの概念のタイヤでは対応できないと判断した。ディノ用V6ユニットから絞り出される大パワーを確実に路面に伝え、同時に高いコーナリンググリップを確保する必要がある。さらに、減速時にブレーキから発生する熱を効率的に逃がすことも重要だ。ロードバージョンのストラトスには205/70VR14サイズのタイヤが装着されていたが、もちろんこのタイヤではWRCは戦えない。

そこで、当時ピレリのモータースポーツ責任者だったマリオ・メッツァノーテは、タイヤ外径を変えずに内径 (ホイール径) を拡大する「インチアップコンセプト」を提案する。見慣れぬ偏平率50%の15インチ超偏平タイヤは、横剛性の向上によって従来の70偏平タイヤに比較してトラクションが各段にアップし、荷重を負担するために接地面をワイド化したことで高速安定性も十分に確保されている。さらに、ホイール径が1インチ大きくなったことでブレーキの放熱性も向上する結果となった。当時、スーパーカーの最先端だったフェラーリ365GT4BB (306ps) や512BB/BBi (360ps) ですら70%偏平の14インチタイヤを装着していたことを考えれば、ラリー・ストラトス用に開発された50%偏平タイヤがいかに画期的なものだったかが理解できるだろう。このタイヤはP7 CORSAと名付けられ、ストラトスとともに華々しくラリー・フィールドにデビューを果たす。サイズは1975年のスモール・アリタリア・ロゴのマシンがフロント205/50R15、リア275/50R15となっているが、翌年投入300psの4バルブバージョンはリアに295/35R15を装着している。ラリータイヤにはコースと天候によって、スリック、インターミディエイト、レイン、グラベルなどさまざまなパターンがあり、同時にサイズもまちまちだ。また、モンテカルロやスウェーデン・ラリーには極細のスバイクタイヤや、シャベット状の凍結路面用に開発された左右非対称パターン、さらには外側と内側で異なるコンパウンドを使うツイントレッドなども使われることがある。同時に、同じパターンでも路面温度によって数種類の柔らかさのコンパウンドが用意されるから、モンテカルロ・ラリーのスペシャルステージなどではタイヤ選択が勝敗を分けることもしばしばだった。タイヤ開発のコスト上昇から、FIAは1976年にラリーを通じて1種類のサイズ、トレッドのタイヤしか使わせない規定を設けたが、安全性の面から翌年には再び自由化された。77年のモンテカルロ・ラリーでムナーリが装着したP7 CORSAは、現場でピレリのメカニックがハンドカットを施したもので、ミソの数や大きさなどはスペシャルステージの路面状況に応じて細かく対応することができたという。メッツァノーテがラリータイヤとして開発した超偏平タイヤは、残念ながらストラトスのロードバージョンに装着されることはなかったが、ポルシェ911の標準装着タイヤとして市販化されることになった。50/55%偏平16インチサイズのP7は高性能タイヤ界に革命をもたらした、ハイパフォーマンスカーを中心に続々と採用された。

超高速域や高速コーナリング時に最適な排水性能を実現する太いストレートグループは、ピレリP7の大きな外観上の特徴だが、そのルーツはピレリのラリースタッフが現場でハンドカットしたトレッドパターンに求められる。インチアップコンセプトは、その後1987年に発表されたフェラーリF40で40/35%偏平17インチへ、さらに90年のテストタロッサ512TRで35/30%18インチへと進化し、完全に高性能タイヤの主流となったことは記憶に新しい。現在ではBMWやメルセデスなどのチューナーズブランドが19、20インチタイヤを装着している。ラリーマシンに革命を巻き起こしたランチア・ストラトスだが、ピレリとの共同開発を通じて、高性能タイヤにも大きな革命を惹き起こした結果となった。



28-31 May	Acropolis Rally(GR)	R(Engine)	(2) Darniche-Mahe (5) Sirco-Ferikins	Chardonnet Bic	TON14329 332
27-24 Jun	Orense(E)	1st	(3) Bagration-Liopis		?
27-24 Jun	Rally del Cioccol(I)	8th	Nico-Barban		?
28-29 Jul	Valli Piacentini(I)	1st	(3) Tony-Mannini		?
14-15 Sep	Coppa Liburnia(I)	1st	(3) Tony-Mannini		?
16-20 Sep	Tour de France(F)	1st	(4) Darniche-Mahe	Chardonnet	TOR06880
1-6 Oct	Rallye San Remo(I)	1st R(accident)	(2) Tony-Mannini (1) Nico-Barban (4) Tabaton-Genovesi	Jolly Club	TOM54374 FO453768
14-19 Oct	Giro d'Italia(I)	5th 6th 9th	Carello-Cesaris Alberti-Alberti Ragastias-Curatolo		?
19-21 Oct	Rallye del RACE(E)	1st	(4) Bagration-Liopis		?
20-21 Oct	100.000 Trabucchi	1st	(3) Tony-Mannini		?
2-4 Nov	Tour de Corse(F)	1st R(sol pump)	(1) Darniche-Mahe (5) Serpaggi-Emmanueli	Chardonnet	TOR06880
18-21 Nov	RAC Rally(GB)	5th	(2) Aken-Kivimaki	Firelli	TON14348

1980

DATE	EVENT	RESULT	DRIVERS	SPONSOR	REG.No.
1-3 Jan	Ronde Hivernale(F)	1st	Darniche-Mahe		?
19-25 Jan	Monte Carlo(F)	2nd	(1) Darniche-Mahe	Chardonnet	TOR06880
8-10 Feb	Rally Costa Brava(E)	2nd	(5) Bagration-Liopis	White	TV360185
4-9 Mar	Rally de Portugal(E)	R(piston)	(3) Darniche-Mahe		?
7-9 Mar	Rallye Sicilia(I)	9th	(2) Montalto-Flay		?
27-29 Mar	Rally Costa Smeralda	1st	(3) Darniche-Mahe	Chardonnet	TON14329
24-27 Apr	Isola d'Elba(I)	9th	Volpi-Fiacchini		?
26-27 Apr	500km Nocturnes(E)	1st	Bagration-Liopis		?
14-18 May	Rally 4 Regioni(I)	2nd	(1) Tabaton-Radanelli		GE738328
24-30 May	Acropolis Rally(GR)	9th R(steering)	(8) Sirocco-Makrinos (2) Darniche-Mahe	Bic Chardonnet	TON14329
7-8 Jun	Riqa(E)	?	Bagration-Liopis		?
21-22 Jun	Orense(E)	1st	Balcazar-Martin		MIV32439
26-28 Jun	Rallye del Cioccol(I)	3rd ?	(8) Cumico-Meggiolan (9) Sala-Godognesi		GE704407 MIX35768
12-13 Jul	Rallye 1000Pistes(F)	R(Engine)	(1) Darniche-Mahe	Chardonnet	?
18-20 Jul	CS(E)	1st 3rd	Bagration-Liopis Balcazar-Martin	White	TV380185
1-3 Aug	Valli Piacentini(I)	1st	Leoni-Marcomini		?
12-13 Sep	Rothmans Manx(GBM)	5th	Dawson-Gormley		?
17-20 Sep	Tour de France(F)	1st	(1) Darniche-Mahe	Le Point	TOU02570
27-28 Sep	Isla de Tenerife(E)	1st	Bagration-Liopis		?
6-11 Oct	Rallye San Remo(I)	R(Engine)	Tabaton-Radanelli		?
17-19 Oct	Rallye del RACE(E)	3rd	(4) Bagration-Liopis	Rothmans	TV380185
31 Oct-6 Nov	Giro d'Italia(I)	R(Engine) 6th	(7) Pons-Alberti-Lucky (4) Tabaton-Pirro		MIV38225 TON12681
16-20 Nov	RAC Rally(GB)	R(Engine)	(3) Aken-Kivimaki		TON14329

1981

DATE	EVENT	RESULT	DRIVERS	SPONSOR	REG.No.
24-30 Jan	Monte Carlo(F)	6th	(4) Darniche-Mahe	Chardonnet	TOU02570
20-22 Feb	Rally Costa Brava(E)	R(Engine)	(8) Bagration-Liopis		?
13-15 Mar	Rallye Sicilia(I)	8th R(Engine)	(1) Diels-Spalato (5) Persutti	White	MIAB24627
2-4 Apr	Rallye del RACE(E)	2nd 4th	(6) Bagration-Sabater (7) Balcazar-Martin	Rothmans Mustard	TV380185 MIV32439
2-4 Apr	Rally Costa Smeralda	R(Engine)	(5) Pregliasco-Persinot	Blue	?
11-12 Apr	Las Palmas	1st	(6) Bagration-Sabater	White	?
22-24 Apr	Isola d'Elba(I)	R(Engine)	(5) Pregliasco-Persinot	White	?
30 Apr-3 May	Tour de Corse(F)	1st	(8) Darniche-Mahe	Chardonnet	TOU02570
1-3 May	CS(E)	1st 3rd	(2) Bagration-Liopis (7) Balcazar-Martin		?
13-19 Sep	Tour de France(F)	2nd	(2) Darniche-Mahe	TOU02570	?
18-19 Sep	Coppa Liburnia(I)	1st	(8) Tabaton-Radanelli		?
22-25 Nov	RAC Rally(GB)	R(accident)	(3) Aken-Kivimaki	Blue	TON14329

1982

DATE	EVENT	RESULT	DRIVERS	SPONSOR	REG.No.
19-21 Feb	Rally Costa Brava(E)	Unplaced	(8) Balcazar-Molino		MIV32439
12-14 Mar	Rallye Sicilia(I)	R(gearbox)	(5) Tabaton-Radanelli		?
1-3 Apr	Rally Costa Smeralda	2nd	(5) Tabaton-Tedeschini		TON14329
22-24 Apr	Isola d'Elba(I)	1st	(5) Tabaton-Tedeschini		?
1-3 Jul	Rallye del Cioccol(I)	5th	(5) Tabaton-Tedeschini		?
19-25 Sep	Tour de France(F)	Unplaced	(2) Darniche-Mahe		?
3-8 Oct	Rallye San Remo(I)	R(accident)	(2) Bagration-Liopis		?
20 Nov	Rally di Monza(I)	?	(4) Verni-Scabini (2) Cazzaniga-Molteni (9) Franco-Francone		MI934054 ?

1983

DATE	EVENT	RESULT	DRIVERS	SPONSOR	REG.No.
9 Jan	24 Ore a Sestrier(I)	?	(8) Borchi (8) Filippi		F1948103 GE826108
10 Apr	Stalom Arli-Castigli	?	(9) Scanavino		MIW13059
5 Jun	Stalom Canalet(I)	?	(9) Vezza (4) Grandini		?